



<写真撮影地は、右地質図の③、黒生漁港__突堤脇>

- ▼ 新生代・第三紀・中新世に、日本列島の背弧海盆・日本海が開いた。銚子は、東北日本側の西南端として、反時計回りに約45°回転した。
- ▼ この時代、銚子はやや深い海面下であり、火山フロントがあった。
- ▼ 黒生では、約1,650万年前に、海生の夫婦ヶ鼻層が堆積した。ほぼ同時期、ここに花崗岩性のマグマが貫入し、温度差により、玄武岩質と安山岩質の熔岩が噴出した。熔岩には、気泡が通過した無数の穴がある。
- ▼ 安山岩質熔岩は、板状節理をなし、高マグネシウムの古銅輝石を含む。
- ▼ 古銅輝石は斜方輝石の一種で、初め明るい緑色で、陽光を浴びて輝く。風化すれば赤褐色となる。

<右地質図の地質色分けの凡例>

- A. 愛宕山層群、B. 銚子層群、C. 夫婦ヶ鼻層、D. 名洗層、E. 飯岡層、F. 香取層&関東ローム層、G. 沖積層

